

HSE Newsletter

2026年8月26日発行

丸紅洋上風力開発株式会社は、秋田港・能代港における洋上風力発電所の安定的な運営・管理を継続するにあたり、本社・現場の双方で「安全最優先」を徹底しています。また、全社で展開するこれらのHSE（衛生・安全・環境）活動の内容や、そこから得られた知見を広く共有することを目的として、定期的に本ニュースレターを発行しています。

親会社である丸紅が出資する「山形県遊佐町沖洋上風力発電事業」においては、当社が開発実務の中核を担い、プロジェクトを推進しています。秋田・能代で培った経験を活かし、それに続く本事業においても事業計画の初期段階からHSE活動を組み込み、安全な事業推進の礎を築いています。

第7号となる本号「夏号」では、新緑の季節から、青空が広がる本格的な夏にかけて、現場および本社で実施したHSE活動についてご紹介いたします。

2026年度 夏の活動

Marubeni
Offshore Wind
Development

変電所火災対応訓練



当社では、洋上はもとより、関連施設における安全確保を最優先とし、緊急時の対応力強化に日々取り組んでいます。その一環として、2026年6月4日、秋田洋上風力発電株式会社（AOW）および能代山本広域市町村圏組合消防本部の皆様と合同で、AOW所有の能代変電所における「火災対応合同訓練」を実施しました。

本訓練は、変電所内の設備における火災発生を想定し、実践的な形式で行われました。火災警報の感知から、関係各所への緊急連絡、遠隔操作による電力の遮断、そして現場へ急行したスタッフによる初期対応と消防隊の誘導に至るまで、一連の初動対応プロセスを本番さながらに確認しました。



訓練後の振り返り会では、参加した消防隊員の方々から「周辺への延焼防止措置」や「大規模火災を見据えた水利確保の重要性」など、専門的な視点に基づく貴重なフィードバックをいただきました。



北羽新報
2026年6月5日

記事をクリックで拡大表示

津波避難訓練



当社は秋田港・能代港洋上風力発電所の運営管理会社として、例年5月26日の「県民防災の日」にあわせて津波避難訓練を実施しています。本年度は事業スケジュールの都合により6月17日の実施となりましたが、引き続きAOW社、バスラス社、能代市下浜自治会と合同で訓練を行いました。

今回も日本海での地震発生・津波警報発令を想定し、事務所員、地元住民が、まずは第1集合場所である下浜自治会集会所前へ避難しました。同場所からマリンコントロールルームのスタッフが、洋上風車で作業中の当社・協力会社チームやアクセス船に対して無線連絡を実施し、安全確保に向けた連携手順を確認しています。

その後、最終避難場所である能代公園のあずま屋で点呼確認とともに、東京本社への避難完了を報告し、地域と一体となった実践的な訓練を無事に終えることができました。



北羽新報
2026年6月18日

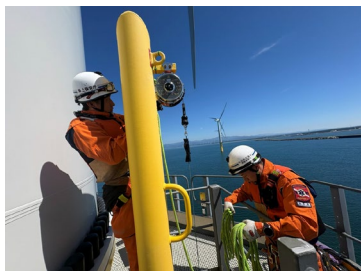
記事をクリックで拡大表示

海岸清掃ボランティア 「美しいやまがたの海」クリーンアップ運動



当社は昨年に引き続き、遊佐町主催の海岸清掃ボランティア「美しいやまがたの海」クリーンアップ運動に参加しました。好天に恵まれた早朝より、コンソーシアム各社や地元住民の皆様など総勢約60名で海岸の清掃を実施しました。今回は、砂浜に残った細かいプラスチックごみやペットボトルなどを中心に、手作業で丁寧に回収を行っています。今後も地域の皆様と連携を深めながら、美しい自然環境の保全と地域貢献活動を継続してまいります。

海上保安庁 第二管区海上保安本部 仙台航空基地による現場視察



安全最優先の事業運営を続ける当社にとって、万が一の事態に対応するための海上保安庁や消防などの関係機関との連携は欠かせない重要な取り組みです。

今後、全国で洋上風力発電の導入が拡大していく中、海上保安庁では特殊な設備に対応した新たなレスキュー手法の確立を進めておられます。



北羽新報
2026年8月10日

記事をクリックで拡大表示

秋田市消防本部による現場視察



国内に先駆けて商業運転を行っている秋田港・能代港の洋上風力発電設備において、今夏は、海上保安庁 第二管区海上保安本部 仙台航空基地の機動救難士の皆様に能代港へお越しいただき、設備を実際にご確認いただきました。また、洋上設備特有の知識が求められる救助活動を見据え、秋田市消防本部の皆様には秋田港の現場を視察していただき、設備内部の構造を直接知っていただきました。各視察では、日々現場に出ている当社の作業員を交えて活発な交流を行い、直接顔を合わせて情報交換を行う大変有意義な機会となりました。

当社は今後も、定期的な視察や実践的な訓練を通じて関係機関と緊密に連携し、強固な安全管理体制の構築に努めてまいります。

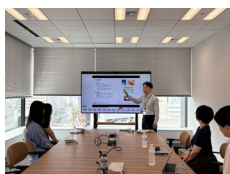
「秋田港をキレイにする会」主催の清掃活動に参加



当社は、秋田市土崎地域を中心に長年ボランティア活動を行っている「秋田港をキレイにする会」主催の一斉清掃活動に参加しました。

7月16日、AOWおよび当社の有志メンバーが集合し、秋田運転管理事務所周辺のクリーンアップを実施しました。早朝はあいにくの雨模様でしたが、活動時間には晴れ間ものぞき、参加者全員で協力して無事に清掃を終えることができました。

夏のミニHSE研修会



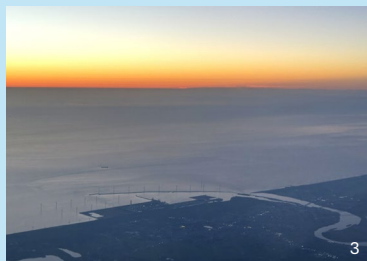
当社では「安全管理」を最重要課題と位置づけ、現場だけでなく日常生活においても一歩進んだ安全意識（HSEカルチャー）を大切にしています。その一環として、本格的な夏のレジャーシーズンを前に、本社スタッフをはじめ、能代からも参加できる「夏のミニHSE研修会」を開催しました。

本研修会では、業務中はもちろんプライベートの安全にも直結する「熱中症」と「落水」にテーマを絞り、コンパクトな時間で重要なポイントを全社で共有しています。参加者は、日常的な水分補給や正しい体の冷やし方に加え、水辺の事故を防ぐために、まずは「絶対に落ちない!」という大原則を確認し、万が一に備えたライフジャケットの着用や緊急時の「119番」「118番」の正しい使い方など、実践的な対応を全社で共有しています。



本社HSE活動

Snapshots



丸紅洋上風力開発株式会社

〒100-8088

東京都千代田区大手町一丁目4番2号

<https://mowd.jp/>

北羽新報
2026年6月5日

(11) 第3種郵便物認可 新聞定価月きめ2,900円(本体2,686円、消費税214円)1部売り100円(税込み)

北

३३

辛



ホースを構える消防隊員。松林への延焼リスクを共有しながら放水準備を確認した(能代市河戸川の能代港変電所で)

能代港変電所で火災訓練

能代、秋田両港で洋上風力発電事業を担う秋田洋上風力発電（ＡＯＷ）と丸紅洋風（開発ＭＯＷＤ）は４日、砂防林にある能代市河川を想定した初動・通報連携訓練を実施した。能代消防署（合同で約４０人が参加

して行い、緊急要請から送電遮断、消防隊への引き継ぎまで、連の対応を確

認した。同案での消防署との合同訓練は初めて。

訓練は釜巻と能代港湾区域にある同市和山下の社代能代運転事務所（マリンコントロール）

ム(MCCR)の2拠点で展開。能代港洋上風力発電所の(2基)の電力を集約・変換し、系統へ送り出す変電所のコンテナ設備から火災が発生した想定で行われた。

で現場へ急行。到着した消防車を手振りで誘導し、消防隊長に設備の配置図を示しながら構内の危険箇所と送電源の位置状況を説明し、消防隊の指示に従って引き継いだ。消防隊は「スズメ開き」を行ったほか、通報から担当者も現場に到着するまでの時間間もタイムキープが計測・記録した。

変電所内は電気が流れ設備も稼働中なため、消防活動には制約が伴う。蓄電池などさまざまな設備が構内にあ

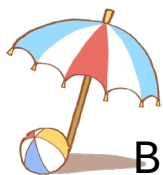
立ち入るとともに踏まへる、無理な立
ち入りを避け安全訓練を最
優先とする万が一、進入時
に入り口の混雑を避けて
危険を最小化する動線的重要
性は訓練を通じて共有され
た。大災害面が往來するに
現場の特性に臨み、警察
など関係機関との連絡体制
を整理、強化していく必要
性も確認された。能代山本
広域消防本部の杉形和彦警
防課長は、継続的に訓練を
重ね、現状に力向上を
つなげたいと話した。

OWの渡邊卓真氏代
港・秋田港洋行 風力発電所
長は「発電所は5月24日
時間体制で運転しており、
万一に備えた体制が備わら
ない。自給では対応できな
い。事態は想定外だ。対応に
応じきれない事態も想定さ
れ、所轄消防、平時から運
搬を深めておくことが重要
と強調し、訓練で得た
気付きや消防からの助言を
マニュアルに反映し、誰が
対応しても同じ水準で行動
できる体制を整えたい」と
述べた。

として消防へ110通報。煙と炎が燃え広がる中、在火地火災状況のほか、麥を収穫する庄内・松籾油の避難場所があることなど消防活動に必要な危険情報も伝達し、並せてオペレーション課に担当者よりMCCRによる電通操作による電通設備の順確認を実施した。

コテナ内からの出火と、立上り続けたあき巴力ネットワークの連手順も確認。遮断器の開放といった操作は誤作動防止のため1人が操作、もう1人が確認する2人体制で行われた。

MCRからは別隊が車



北羽新報 2026年6月18日

市代能 洋上風力事業者と下浜自治会 津波想定し合同訓練 情報共有、避難経路確かめる



点呼などで避難状況を確認する参加者（能代公園で）

能代・秋田港洋上風力発電所を運営・管理する3社と地元自治会の合同津波避難訓練が17日、能代市で、和山下の能代運転管理事務所と近くの能代公園で行われた。日本海中部地震（昭和58年5月26日）を教訓に、海上で作業する人への迅速な情報伝達や高台にある避難場所への避難経路を確認した。

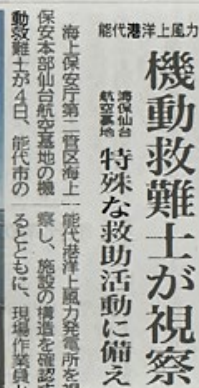
高さ5メートルの津波警報が発令された想定し実施した。緊急地震速報があり、米代川河口に近いMOWDの能代運転管理事務所で激しい揺れを感じ、災害専用のグループチャットを通じて事務所員や関係者に避難を呼び掛け、情報共有と行動指示を一斉に行った。警報発令を洋上の作業員と情報共有する仕組みも、各パートの状況も確認。MOWDの東京本社に洋上作業員と事務所員の安否などを連絡した。

敷地内の1次避難場所に「津波ラック」を設置。後から来た社員や周囲に対して、既に避難を開始したことを視覚的に知らせる体制を取った。津波警報発令を受け、事務所員と地元住民が津波時の避難場所となる能代公園のあずまや（標高24メートル）を目指して歩いた。夜間に林を通ると迷う恐れがあることを踏まえ、最短距離の傾斜を上って行った。避難した公園現地からは無線機を使って洋上風車でメンテナンス作業を行うMOWD、

ベスタスの社員、CTVに地震発生を連絡。あずまやでは点呼で人数を確認し、東京本社に避難完了を連絡した。地元自治会への周知にも取り組み、事務所から公園のあずまやまでの避難経路を示したチラシを住民に配布。万一の際に迷わず高台へ向かえるよう備えた。AOWの井上聡一社長は「大規模地震時は初動と身の安全を第一に考えることが大事。平時からの訓練により有事の対応力を高めてほしい」と話した。

出典：北羽新報 2026年6月18日付 朝刊
© 北羽新報社 許諾を得て転載しています。

北羽新報
2026年8月10日



視察には海上保安庁の機動救難士のほか、運営に携わる紅十字と電力開発（東京、MOWD）の現場作業員が参加。洋上風車の設備構造を確認したほか、緊急時を想定した救助方法や特殊環境下での対応について実務的な意見交換を行った。

相互の連携を深めた。

洋上風力発電設備は海上に設置されるため、事故や急病発生などの際には、通

情報交換を行った。国内で洋上風力発電の導入が拡大する中、特殊な海上設備での救助活動に対応できる体制づくりを進めるのが目的で、商業運転中の同発電所をモデルケースとして活用した。

充実と海上の安全確保に努める」としている。

12日の新聞は休みます

11日は新聞制作を休みますので、12日付の北羽新報は休ませていただきます。ご了承ください。

北羽新報社

丸紅洋上風力開発は「安全を最優先とした事業運営」は、海上保安庁との連携が不可欠」と強調。今後も定期的な視察の受け入れや実践的な訓練を通じて関係機関との連携を強化し、洋上風力発電の安全管理体制の

常の陸上施設とは異なる救助活動が求められる。このため海上保安庁では、洋上風車など特殊設備に対応した新たなレスキュー手法の確立を進めている。

能代、秋田両港の洋上風力事業を担う秋田洋上風力発電（能代市、AOW）と

出典：北羽新報 2026年8月10日付 朝刊
© 北羽新報社 許諾を得て転載しています。